

第17回 関西多読指導者セミナー

主催：日本多読学会

日時：2024年2月23日(金) 10:00~16:00

【発表概要】

10:05-10:50 招待講演①

「多読の効果は長期継続で明らかに」

西澤一 (KOSEN-KMITL タイ)

豊田高専における短期(2~3年)と長期(5~7年)多読プログラムを比較し、長期継続の優位性を述べます。また、同校での指導を例に、読書量(100万語以上)や英文レベル(のやさしさ)の影響、および、朗読音声を使った聴き読み等の指導状況を紹介し、日本の高専生レベルの英語力では、絵本から始め、レベル1のGRでの聴き読みで流暢性を高め、早期に和文英訳から脱してもらうのが指導方針です。

11:05-11:30

「多読後の有能感を有用感につなげる活動：『分かった!』の達成感から『人の役に立てた!』に発展させる指導法」

Sam Murchie (上杉英会話教室)

英語レベル初級の学習者でも、正しい多読指導を通して、短時間で「あ!分かった!」(有能感)の経験を積み重ねることができる。さらに、学習者が多読で定着した単語や文法の知識を他者と共有し、他者の役に立つことで、学習者の「人のために役にたった!」という気持ち(有用感)が培われる。①学習者の有能感の向上を促す多読の進め方と、②学習者の有用感を高める具体的なアクティビティーをご紹介します。

11:35-12:00

「中1の冒険と行動力:多読コミュニティーに吹く新たな風」

山下 陽子 (鳴友学園女子中学高等学校)

多読指導には易しい本をたくさん用意し、生徒に自由に選ばせて授業内多読を行うことが極めて重要といわれている。英語多読の冒険に出発する中学生には、多読を指導する英語教師のほかに、強力なサポーターとなりうる存在が複数ある。今年度の中1の多読の進捗状況を紹介し、4月~12月で既に600冊、10万語以上を読んでいる生徒たちにとって、何が多読を推進する要因となっているのか、多読の指導者ができることは何かを考察する。

13:45-14:10

「大手前高校におけるオンライン多読 e ステの取り組み」

松山知紘 (大阪府立大手前高等学校)

この発表では大手前高校の1年生で行っているオンライン多読(e ステ)の取り組みを紹介します。多読導入のきっかけ、授業での実施方法、多読指導を進めていく中で出てきた成果や課題、生徒のモチベーションを上げる方法等を共有させていただき、多読を実施したいと考えておられる先生方に役に立つヒントを提供できればと考えております。

14:15-14:40

「YA 文学まで読ませる英語多読: 13 年間の大学英語多読実践で分かったこと」

柴田里実 (金城学院大学)

本発表では、13 年間の大学での多読指導に基づき、長期的に相当量を読ませる多読文化の形成について提案します。これまでに、英検準2級程度から多読を始め、年間100万語を読了し、2年間以上多読を継続することで、YA 文学まで読めるようになる学生を数多く輩出してきました。多読は一見すると個人の活動に思われますが、実際には他者の存在が必要です。本発表では、長期的に相当量を読ませるために教師ができることを提案します。

15:00-15:45 Plenary Speech②

「Extensive reading in Japan at a crossroads. Where are we now, and where are we going?」

Rob Waring (Emeritus Professor of Notre Dame Seishin University)

Extensive reading (ER) is well known to be successful in promoting general motivation for English language teaching. However, many teachers still are reluctant to take up extensive reading despite all the evidence that it works, and is very successful, and that students really enjoy reading extensively. The question is why does this happen? This plenary will outline some of the major reasons why extensive reading is not as well accepted as it should be. It will highlight things such as a lack of understanding of what ER is and why it should be done, poor training, insufficient resources, inappropriate materials, lack of time and a general perception that while “extensive reading may be good, it’s not something that I want to do.” This talk will highlight many of the reasons why we are seeing some recent resistance to ER in Japan, and will try to find some of the causes, as well as propose some solutions.